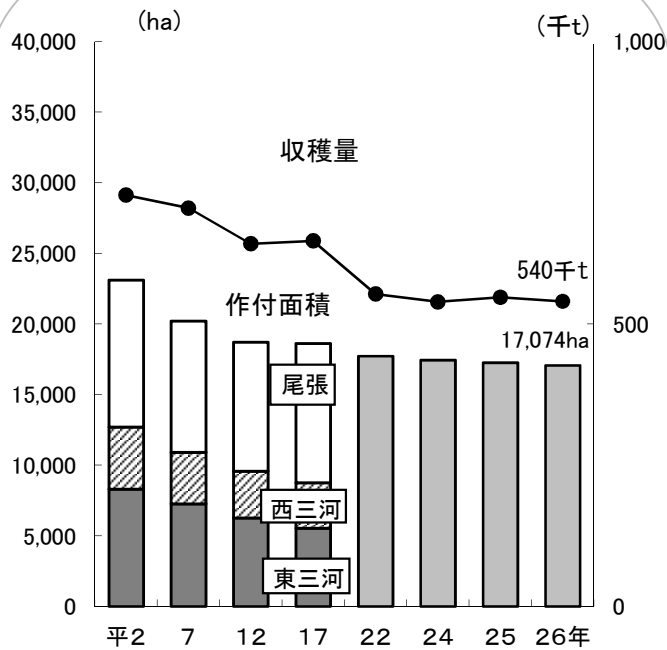


野菜

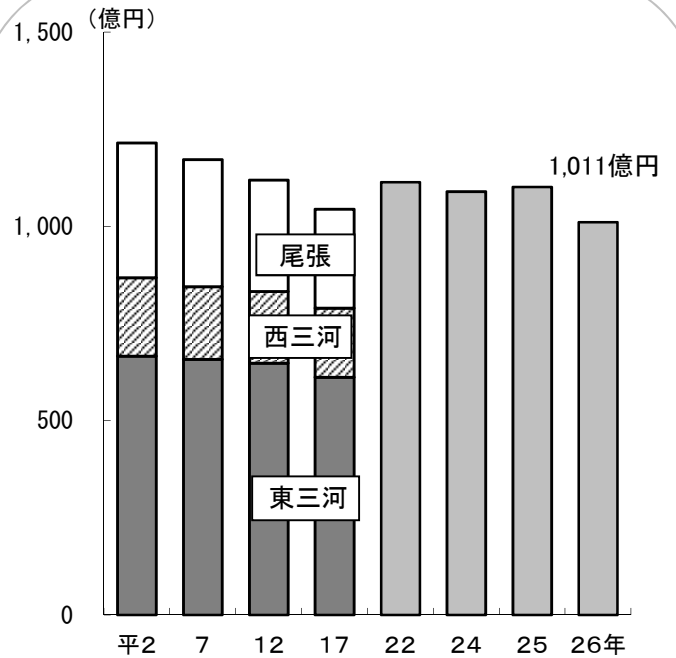
《野菜作付面積と収穫量の推移》



(出典：青果物生産出荷統計調査)
 (注) かんしょ、ばれいしょを除く。

作付面積・収穫量は微減傾向にある。平成26年については、作付、収穫量ともにほぼ横ばいとなった。
 なお、平成19年以降は一部品目を除き市町村別統計が廃止されたため、県全体とした。

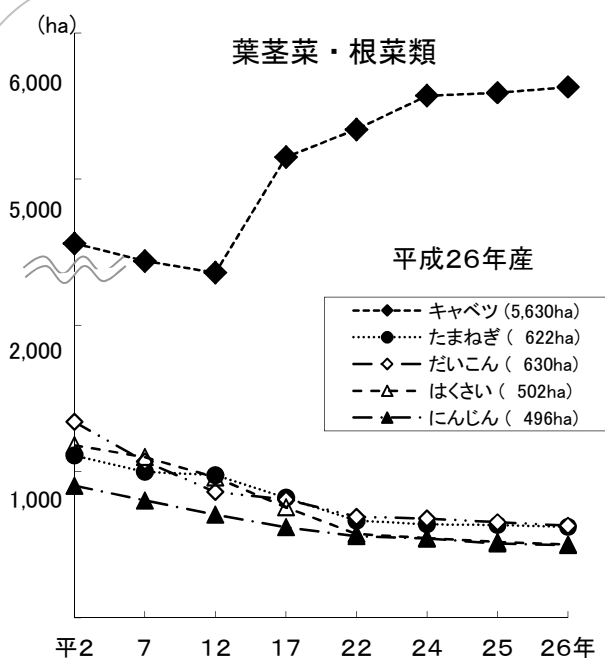
《野菜産出額の推移》



(出典：青果物生産出荷統計調査)
 (注) かんしょ、ばれいしょを除く。

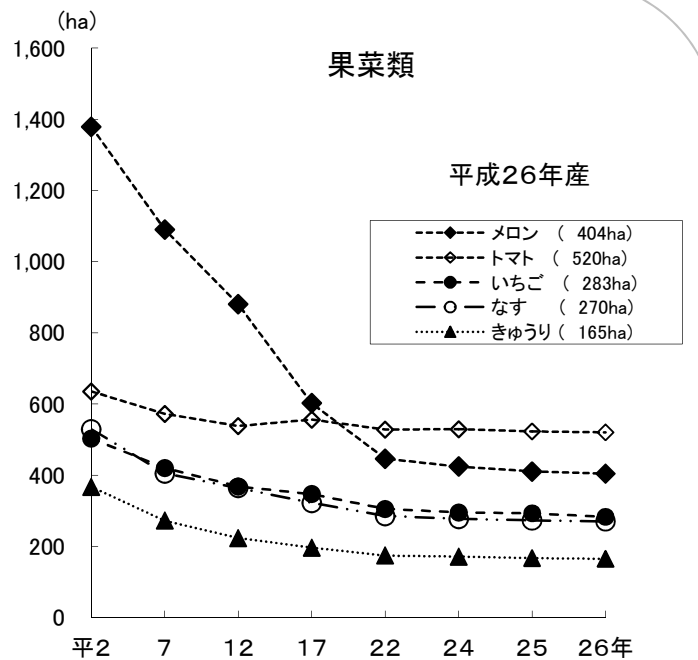
平成26年は、年の初めは低温や雪の影響で価格は高騰したが、その後4～7月にかけては価格は低めで推移した。さらに8～9月頃に天候不順等の影響で一時価格が高騰し、その後その反動で年内は価格が低迷したことにより、野菜全体では、前年よりも91億円減少した。
 なお、平成19年以降は市町村別統計が廃止されたため、県全体とした。

《野菜主要種類別作付面積の推移》



(出典：青果物生産出荷統計)

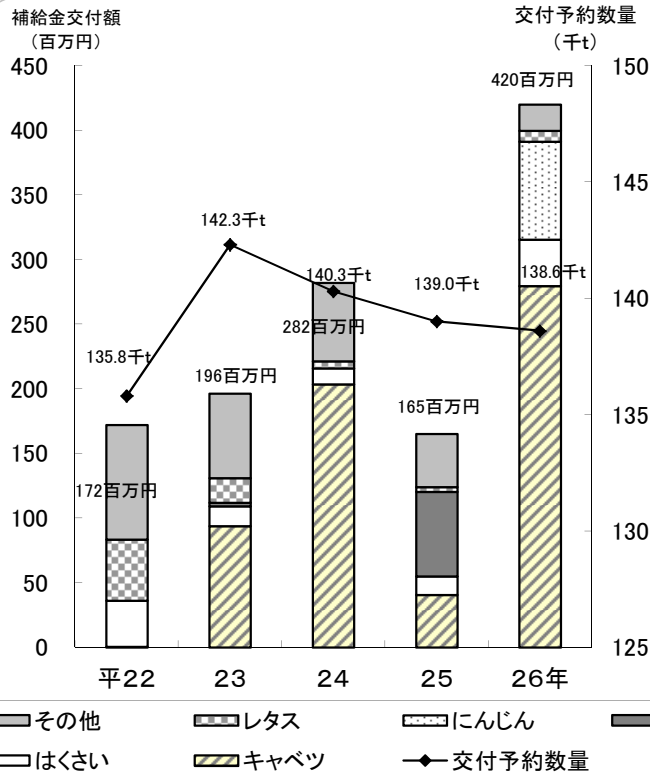
キャベツは増加傾向にあるが、たまねぎやだいこん、はくさい、にんじんの作付面積は、都市化の進展や生産者の高齢化等から減少傾向にある。



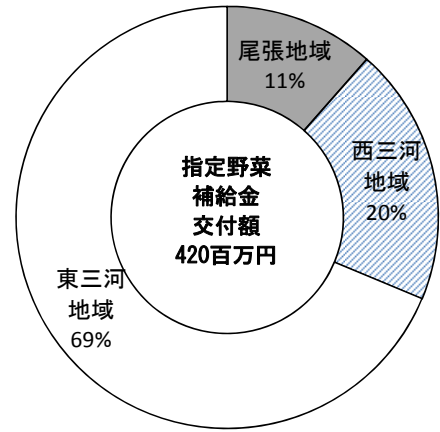
(出典：青果物生産出荷統計)

トマト、いちご、なす、きゅうりは微減傾向にある。
 メロンについては、昭和55年以降、作付面積の減少が続いている。

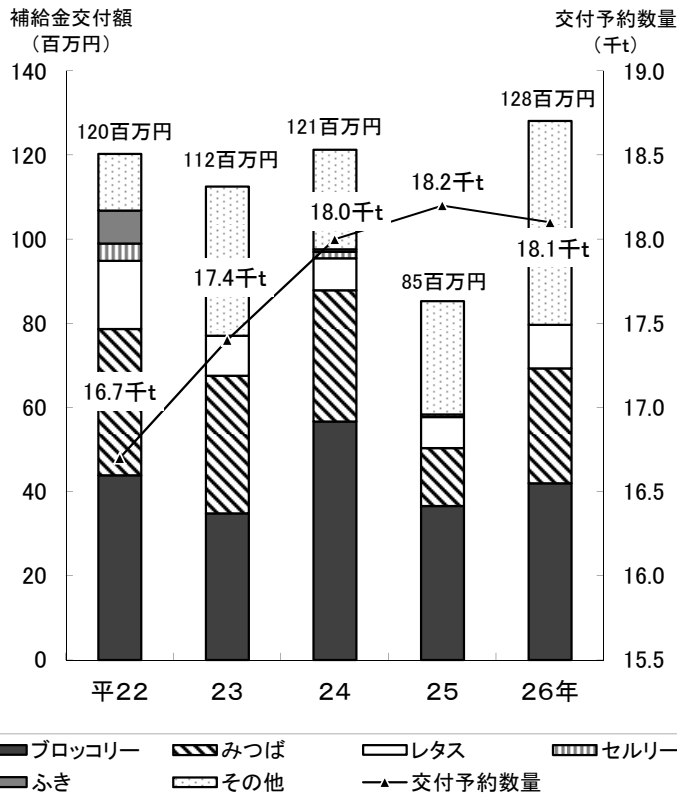
《指定野菜価格安定対策事業における交付予約数量、補給金交付額の推移等》



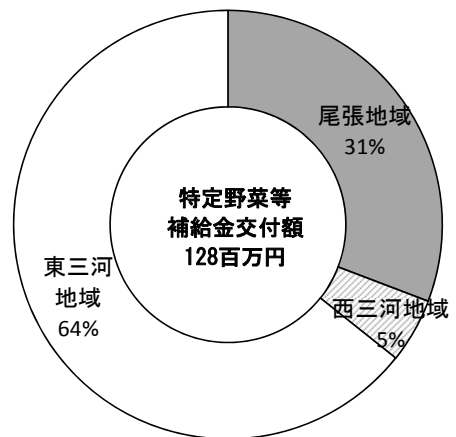
指定野菜地域別補給金交付状況 (平成26年)



《特定野菜等供給産地育成価格差補給事業における主要種別交付予約数量、補給金交付額の推移等》

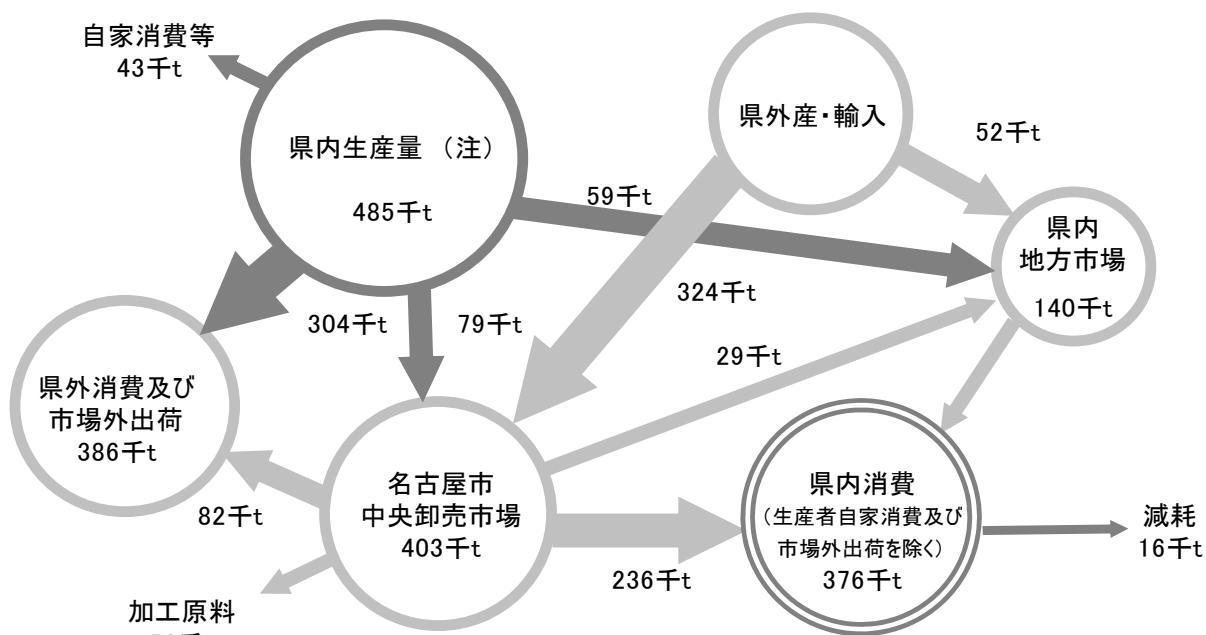


特定野菜等地域別補給金交付状況 (平成26年)



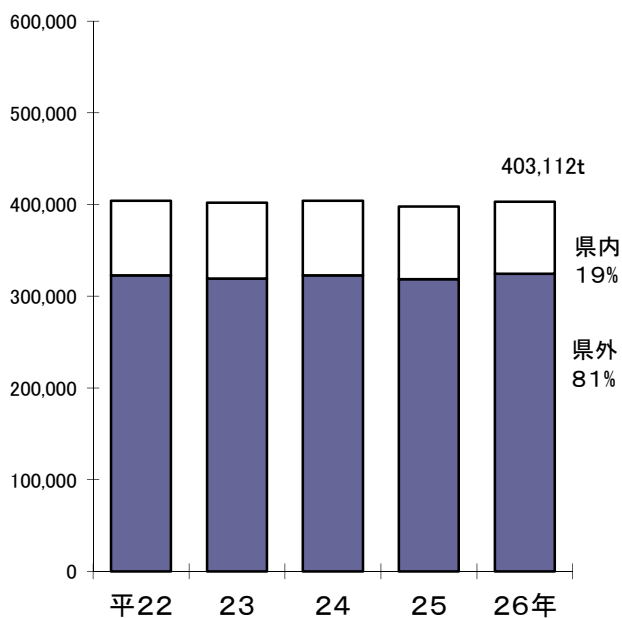
《野菜流通の概要》

(平成26年)



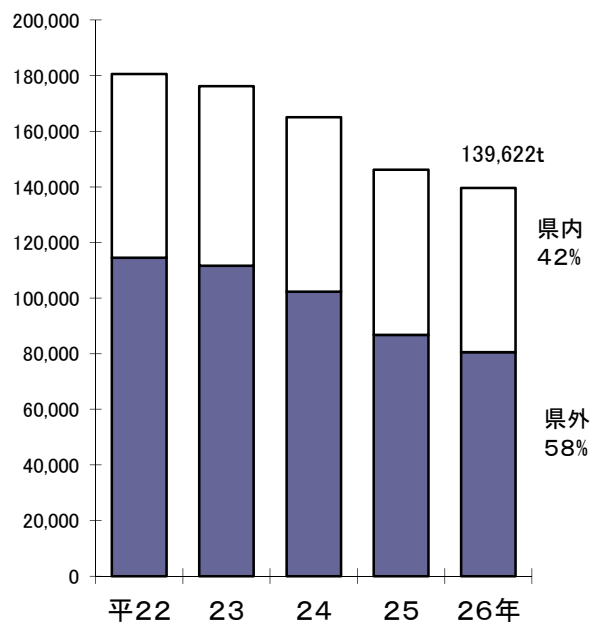
《県内市場過去5か年の入荷量推移と県内産野菜が占める状況》

名古屋市中央卸売市場における推移



(出典:名古屋市中央卸売市場年報)

県内地方卸売市場における推移



(出典:愛知県地方卸売市場年報)

卸売市場の取扱量は、実需者（量販店、外食産業、加工業者等）と生産者との契約取引などによる市場外流通の拡大もあり、減少傾向にある。更に、地方卸売市場は、販売基盤が脆弱なことから、荷が集まりにくく、減少の傾向は中央に比して大きい。